

『背負って救い出す』(イザヤ書 46章2-3節) 2022.9.18. 召天者記念礼拝
＜はじめに＞ 他人の世話になるようなことは、できるだけないようにと願いますが、どんなに注意し、努力していても、そういう場面は起こり得ます。そんな時に、この聖句で私たちに呼びかけられる主なる神の御声に心を向けましょう。「わたしは運ぶ。背負って救い出す。」と主は宣言されます。

I 「わたしは運ぶ」

①生まれる前から(3)

ヤコブの家・イスラエルの家は神が選び呼び出された者の代表・型です。主なる神はすべてのいのちの源です。イザヤ書の時代(BC6世紀ごろ)より遙か昔に、神はヤコブ(イスラエル)を導き支えて来られました。私たちも生まれる前から神に運ばれて来ました。

②年をとっても

老いるとともに身体を動かすことも難しくなり、弱さを覚え、人の支えが必要となります。役に立てなくなるとお荷物呼ばわりされます。しかし主なる神は、老いても変わらずに支え、背負い担うと断言されます。永遠の神は態度を変えず、永遠に私たちを背負われます。

II 運ばれる神(1-2、6-7)

①造られた神(6-7)

富と権力を持つ者が、金銀宝物で贅を尽くして神々を造り出し、これを拝むことが歴史の中で繰り返されて来ました。神を造れるほど、自分は何でもできることを誇示するために。しかし、これらの神々は自ら動けず、叫んでも答えず、救えず、むしろ重荷となります。

②ベルとネボ(1-2)

これらはバビロンの神々のヘブル語名で、バビロンはこの時代に席卷する帝国です。当時、国の戦いは信じる神の戦いで、戦勝国は敗戦国の神々の像を分捕り物としました。バビロンの神々もやがて戦いに敗れて分捕り物となり、自ら救えず重荷となっていまいます。

III わたしに聞け

①わたしのような神はいない(5、8-11)

運ばれる神々の空しさと、生まれる前から永遠に至るまで背負わる神なる主との対比を示し、「わたしをだれと並べて、なぞらえるのか」(5)、「思い出せ」(8、9)、「心に思い返せ」(8)と主は問われます。主なる神はご計画を初めから告げ、それをすべて成し遂げる方です。

②わたしの義を近づける(12-13)

主なる神はご自身の正義と真実をもって、私たちに救いをもたらして下さいます。私たちが何者であるかではなく、「わたしに聞け」との呼び掛けに応える者すべてに、です。頑なで(12)背く者(8)であっても、主の声に振り向く者に救いと栄えを与えると約束されます。

＜おわりに＞ 私たちの地上生涯はやがて必ず終わりを迎えます。永遠の神は私たちを「背負って救い出す」(4)と宣言されています。永遠の昔から今に至るまで変わらない神の呼び掛けに応じて、先に天に移された諸聖徒に倣い、私たちもこの声に信頼しようではありませんか (H.M.)